

前年度の改善方策について実行した改善結果

令和7年度に向けた学校経営改善策	改善方策について実行した改善結果
<p>【1】学校の重点目標</p> <p>① 主体的に考え、課題解決に努める子 児童が学習面、生活面において具体的な目標数値を主体的に設定するなど、キャリアパスポートの目標設定が確実に進歩している状況はあるものの、児童にとっては、まだキャリア教育の活動が将来の夢やショートスパンでの目標とうまく結びついていなかった。1～5年生の数値は前年度からプラス7%となり一定の成果は出てきているように見られるので、引き続き自分の目標を持ち努力することが将来の自分に確実に繋がっていくことを、学校生活の中で児童に伝えていくような指導に努めます。</p> <p>② 粘り強く最後までやり遂げる子 各学級では、個人の目標を教室に掲示する、学期の終わりには振り返りを行う、目標を数値化する等、様々な取り組みを積極的に行なっていることから、今後は各学級の工夫の情報を共有し、さらに児童が自ら立てた目標の実現に向けて努力していることを実感できるような活動を取り入れて参ります。</p> <p>③ 健康な心や体を自らつくろうとする子 昨年度度は全学年が登校時に昇降口であいさつを担当する取り組みが行われるなど、あいさつに対する指導を強化したことが、地域の方々にも評価された。来年度は、地域対象のアンケートにおける目標値も達成できるように、引き続きあいさつ指導の強化を継続して参ります。</p>	<p>① キャリアパスポートの目標設定を具体的に数値化した内容（いつまでにどのくらい）を意識させました。また、定期的に目標を意識させる時間を設定することにより自分の目標に向かって努力する姿がみられました。</p> <p>② アンケート結果では、「クラスや学校のために係や当番、清掃などの仕事を頑張ったり、誰かの役に立つ行動をした」と回答した児童が82.2%、「係や当番、清掃などの仕事を、自分の役割に責任を持って活動している（1～4年生への設問）」と回答した児童が92.6%、「目標をもち、それを達成するために努力している」と回答した児童が5・6年生で84.1%、1～4年生で94%となりました。これらから、多くの児童が自分の役割を意識し、責任をもって行動している様子がうかがえ、学校が学期ごとに目標を設定し振り返りや自己評価を行ってきた取り組みの成果だと評価します。</p> <p>③ 学校では健康な心身の育成を目的として、「あいさつ運動」では児童が楽しみながらあいさつに親しむ機会となりました。校内においてはあいさつが日常的に行われていた、といった保護者、関係者の声もあり、学校全体で継続的にあいさつの強化に取り組み一定程度定着している様子がうかがえました。日常的な積み重ねが結果につながるものであるから、さらに地域や家庭に伝わるよう引き続き継続的な取り組みが大切と考えます。</p>
<p>【2】学習について</p> <p>先生も児童もタブレットの活用に慣れ、現在はあらゆる活動に積極的に使用している。授業にタブレットが使用されていることが「当たり前」になり、手元で意見をまとめ、友だちの考えを参考にするなど、授</p>	<p>アンケート結果では、「学ぶことが楽しい」と回答した児童の割合が5・6年生で72.6%、1～4年生で87.7%、「授業は分かりやすい」と回答した児童は、5・6年生で80.3%、1～4年生で96.4%、そして学校の自己点検アンケートで「『主体的に考え、課題解決</p>

業におけるコミュニケーションの大事なツールとなっている。学校が重点目標に掲げてきた「主体的に」学習するということが、児童にとってもごく自然な学びの形となってきている。学習プロセスを重視し、主体的・対話的に深い学びを目指すアクティブラーニングを通じ、これからの時代に求められる資質や能力を持つ子どもたちを継続して育成して参ります。

に努める子』の育成ができている」と回答した教職員は 95.4%となり大幅な改善が見られました。

これらから、児童の学習に対する意欲や授業内容の理解は概ね良好であり、学校の取り組みは学習意欲や理解の向上につながっていました。